

# 探究 ひとを想い 先駆する青年たれ

一般社団法人 和歌山青年会議所 [www.wakayama-jc.net](http://www.wakayama-jc.net)

Report

2019年7月6日(土)・7日(日) ガレリア亀岡、亀岡駅北広場

## 近畿地区大会亀岡大会

広報戦略委員会 委員長 石原詢二

2019年7月6日から7日にかけて、京都府亀岡市にて近畿地区大会亀岡大会が開催されました。

来年度は和歌山青年会議所が主管となり近畿地区大会を開催することとなります。大会式典では大会キー伝達式が行われ、和歌山青年会議所メンバーも山路理事長とともに壇上に上がり、来年に向けての意気込みをアピールしてきました。和歌山での大会を成功に導くためにメンバーが一丸となって準備を進めてまいりますので、皆様のご協力をお願いいたします。

亀岡駅北広場で開催されたJOY to KINKIフェスタにブース出展し、和歌山市の特産品として1日目は加太のうみプリンを、2日目は生しぼりジンジャーエールをそれぞれ出展しました。いずれも好評を頂き、またメンバーが他のLOMメンバーや来場者に売り込んでいただいたおかげで無事に完売することができました。加太観光協会からご提供いただいたパンフレットも配布し、和歌山、特に加太の魅力を県外に向けて広くアピールすることができ、意義のあるブース出展となりました。



壇上で次年度への意気込みを語る山路理事長



大会キーの伝達を受ける山路理事長



大会の司会を務めた岡本委員(左)



ブース出展の様子



和歌山から出席したメンバー



うみプリン完売後に記念撮影

# 6月度例会

例会委員会 副委員長 出口清崇

2019年6月21日、和歌山県勤労福祉会館プラザホープにて6月度例会を開催しました。

本例会は「ビジネスファッションチェック例会」と題して、青年経済人として相応しい装いを学ぶことを目的とし、講師には賛助企業である銀座山形屋より東延好氏をお招きしました。例会の前半では、抽選で選ばれたメンバーにビジネスファッションに関するスピーチをしていただき、個々が抱える装いの悩みに対して、東氏からの確かなアドバイスを頂きました。後半では、スーツの着こなしに関してご講演いただき、スーツスタイルの種類からメンテナンス方法まで、幅広い知識を学ぶ機会となり、皆が東氏の話に対し、熱心に耳を傾ける姿が印象的でした。

JICの場では定期的にスーツを着用する機会があっても、日常の仕事やプライベートではほとんどスーツを着用しないメンバーもあり、スーツの着こなしに関して誰に何を聞いていいものか分からないという声を聞くことができました。本例会はメンバーの着こなしに対する疑問、潜在的な悩みを解決する有意義な場となりました。



山路理事長の挨拶



受付の木谷委員



講師の銀座山形屋 東延好様



ファッションチェックを受ける会員



# 第2回わんぱく相撲和歌山県大会

会員開発委員会 委員 有村 翼

本年度の第2回わんぱく相撲和歌山県大会は和歌山青年会議所が初めて主管LOMとして運営しました。

有田青年会議所と御坊青年会議所を合わせた3LOMで主管を毎年交代して続けていく事業ですが、3LOMが連携し、和歌山が主管を務める年はもちろん、そうでない年も真剣に取り組んで翌年に引き継ぎ、より良い事業構築に努める必要があります。今回見つかった課題としては、出場者数が200名以上も集まる和歌山場所と9名の県大会では当日の運営方法が大きく異なり、また盛り上がりに対応するためタイムスケジュールを工夫する必要があること

に気付きました。

県大会は和歌山場所、有田場所、御坊場所で優勝したわんぱく力士たちが全国大会出場をかけて争う場となります。各LOMメンバーが自分達の代表として応援し、またそれに応えようとする子供たちの姿を目の当たりにし、我々入会2年目の会員開発委員会メンバーが和歌山場所を感じた青少年育成事業の楽しさ、必要性を更に肌で感じることができました。

末筆になりますが、ご協力いただきました皆様、ありがとうございました。



山路理事長による大会会長挨拶



事業を担当した会員開発委員会



緊迫する取組み



豪快な投げ技

# 第3回オリエンテーション

会員拡大委員会 委員長 玉置清正

第3回オリエンテーションを開催いたしました。ご参加いただいた入会候補者の皆様には、西村専務理事から入会までの流れや和歌山青年会議所の定款について説明がなされ、11名の方に入会申込書へ署名していただきました。

その後、当日は参加できなかった方にも入会申込書に署名いただき、最終的に22名の入会候補者に署名していただくことができました。目標人数には届かなかったものの、昨年、一昨年を超える人数を入会へと導くことができました。これは皆様から会員拡大運動に多大なるご協力を頂いたおかげです。本当にありがとうございました。

入会候補者には入会后、青年会議所運動に邁進し、自らを探究して情熱を持った青年へと飛躍していただけるよ

うに、我々現役会員も努めなければなりません。今後ともご協力いただきますようお願いいたします。



入会申込書に署名する入会候補者



定款等について説明する西村専務理事



懇親会で挨拶する森下直前理事長



玉置委員長の挨拶



懇親会の様子

## 8月度告知

### 紀州おどりへの参加

2019年8月3日(土)

本年度も会員開発委員会では2019年8月3日に開催される第51回紀州おどりに参加するために山車を制作いたします。2年目のメンバーが中心となり、6月末より約1か月半の期間をかけて制作した山車を引っ提げて、気分十分で紀州おどりに参加する予定です。ご多忙の折大変恐縮でございますが、何卒ご参加ご協力の程よろしくお願いいたします。

(会員開発委員会 委員長 和田篤樹)

### わんぱく相撲全国大会への参加

2019年8月3日(土)・4日(日)

本年度も第35回わんぱく相撲全国大会が東京都墨田区総合体育館にて開催され、和歌山からも6名の代表選手が参加します。皆様におかれましては大変ご多忙のことと存じますが、和歌山を代表して全国から集まる選手たちと競い合う子供たちの応援にご参加いただけますよう、ご協力よろしくお願いいたします。

(会員開発委員会 委員長 和田篤樹)

### パワーオブワカヤマ～#マチノアカリ～

2019年8月10日(土) 四季の郷公園

ひととひとを結ぶまちづくり委員会が構築しましたまちづくり事業「パワーオブワカヤマ～#マチノアカリ～」を8月10日14:00～21:00四季の郷公園にて開催いたします。

本事業は、山路理事長が掲げるマチに暮らすひとや、マチで活動されるひとたちの架け橋となるべく、多くの人と協働し作り上げた事業となります。和歌山青年会議所の活動や、事業に対する想いを多くの方に知っていただく機会となりますのでご参加ご協力のほどよろしくお願いいたします。

(ひととひとを結ぶまちづくり委員会 委員長 瀧本拓起)

### 8月度定時総会

2019年8月27日(火) ホテルグランヴィア和歌山6階 ル・グラン

8月度定時総会は、補正予算の審議と次年度役員が決定される重要な場となります。また、新たな仲間を迎える入会式も行われますので、新入会員にとって一生の思い出に残るような華々しい舞台となるように大勢の現役会員で迎えてあげようではありませんか。万障繰り合わせの上、ご参加いただきますようお願いいたします。

(総務委員会 幹事 武市健一)

### 8月 スケジュール

3	土	紀州おどり	ルミエール華月殿前
4	日	わんぱく相撲全国大会	東京都墨田区総合体育館
6	火	第15回財政規則審査会議	事務局
8	木	第16回三役会	(株)ナルセ
9	金	理事会	商工会議所特別会議室
10	土	パワーオブワカヤマ ～#マチノアカリ～	四季の郷公園
21	水	第16回財政規則審査会議	事務局
23	金	第17回三役会	(株)ナルセ
26	月	近畿地区正副会長会議	西宮
27	火	定時総会	ホテルグランヴィア和歌山
		近畿地区役員会議	西宮
28	水	委員長会議	あいあいセンター
		第8回会員会議所会議	WEB



# わとらんが行く！和歌山市が誇る企業の現場 「農業総合研究所」編

取材協力：株式会社農業総合研究所 代表取締役 社長 及川智正 様

## 1 事業概要

当社は2007年に創業した会社です。独自の物流×ITプラットフォームを駆使し、全国の生産者と提携し、集荷拠点で集荷した新鮮な農産物を、スーパーマーケット等で委託販売する仕組みを提供しています。

## 2 「日本の農業をなんとかしたい」

東京農業大学を卒業後、普通の会社に就職して営業の仕事をしていました。しかし、在学中の「日本の農業をなんとかしたい」という想いが忘れられず、妻の実家が農家であったことから2003年に和歌山に移り住んで農業に従事するようになりました。

ところが、生産の現場にはなかなか魅力を感じることができませんでした。農産物の生産現場では大変な労力が必要なのですが、苦勞して作った農産物を農協に出荷したところで、最終的に食べていただく消費者の顔はまったく見えませんし、いくらで売れたのかすら分かりません。誰からも「ありがとう」と言ってくれず、苦勞に見合ったやりがいを見ることができなかつたのです。

次に、販売現場から日本の農業の仕組みを変えてみようと考えて、大阪で青果店を始めました。生産者の立場では農産物を少しでも高く売りたいところですが、販売者の立場になると反対に少しでも安く生産者から仕入れなければなりません。生産者と販売者の双方の現場を体験したことで、双方の立場で大きなギャップがあることを思い知らされ、生産と販売の交わる場所、すなわち流通という部分をコーディネートしない限り日本の農業は良くならないと考えるようになりました。

そこで、流通を改革する仕事に就きたいと考えるようになりましたが、ハローワークに行ってもネットで検索してもそんなことをしている会社が見つかりませんでした。それなら自分で作りたいと考えて、和歌山に戻り2007年に農業総合研究所を設立したのです。

流通を改革すると言っても、具体的なビジネスモデルがあったわけではなく暗中模索の状態でした。まずは営業マンの経験を活かして農家の営業代行コンサルタントを行うことにしました。農家の方からみかんをお預かりして大阪の百貨店などに持ち込んでみるという契約を取ることができました。大口顧客を獲得して意気揚々とコンサルティング料金の支払いをお願いするのですが、和歌山の農家の方は目に見えないものにはなかなかお金を支払ってくれないのです。今になって思うと自分でも分りにくいビジネスをしていたと思います。仕方がないのでお金の代わりにみかんをもらってきて、知り合いの青果店やスーパーに持ち込んで売ったり、時には大阪の駅前でごみを敷いて売ったりしたこともありました。

そんなことをしているうちに、農家の方の間で「東京から来た兄ちゃんに野菜や果物を渡すと高く売ってくれる」と評判になり、農産物を売って欲しいという話が次々と舞い込むようになりました。そこで、集荷場を作って農産物を集め、スーパーに届けるという流通の仕組みを作り、これが当社のビジネスモデルの原型となったのです。この仕組みをどんどん拡大させ、現在では全国で約8,500の農家と契約し、全国のスーパー約1,400カ所に「農家の直売所」を設けるに至っています。2016年には東証マザーズへ上場することもできました。

## 3 今後の展望

当社は「リアルAmazon」と呼ばれることもあります。当社に登録していただくことでネット上の店舗ではなく、スーパーなどの現実の店舗で商品が販売することができるからです。こうしたプラットフォームを提供する業態は農業に限られませんし、日本以外にも限られません。経済産業省と協力して株式会社世界市場という会社を作り、まずは関税がかか



らない香港から日本の農産物を販売するプラットフォームを構築しています。今後はアジア全体、そして欧米にも拡大したいと考えています。

また、青果市場の流通総額は100兆円と言われていますが、60歳になるまでにその1%にあたる1兆円を達成することを目標としています。

## 4 青年経済人へのメッセージ

この記事の主な読者は20代から30代の若い経営者であると聞いておりますので、これまでの経験から得られた私なりの考えをご参考にお聞きいただけたらと思います。

設立当初は資金が50万円しかなく、仕事もほとんどありませんでした。小学校の先生にパソコンを教えるアルバイトなどをして日銭を稼ぐような厳しい状況も続きました。そのような厳しい状況でもこれまで事業を続けることができたのは、「日本の農業をなんとかしたい」という熱い想いがあったからだと思います。短い期間ではありますが、生産と販売の双方の現場で泥臭い仕事を自分のお金と責任でやったという自負があり、「農業を変えられるのは自分しかない」、「農業のことについては絶対に誰にも負けない」と本気で思っています。事業を成功させるためには、例えば「お金を稼ぎたい」でもなんでもいいので、何かしら情熱や突き進むエネルギーというものがなければいけないと思います。また、自分自身を信じるということも必要です。信じられる自分を築くために努力を積み重ねることが大切なのだと思います。

最近「起業をしたいから相談を聞いて欲しい」と言われることが増えました。そういう方々には「相談に来る前にまずやってください。」と答えています。成功の反対はやらないことです。私は生産と販売の両方の現場を実際にやってみたことで、改革すべき点は流通にあると肌で感じるようになりました。実際にやってみて初めて見えてくる問題点や目標があると思います。

同年代のライバルを作ることも大事だと思います。私は漫画「ONE PIECE」の作者である尾田栄一郎さんをライバルだと思っています。尾田さんとは誕生日が1日違いなのですが、収入やいろいろな面で尾田さんには負けています。こうした同年代の成功されている方を目標にすることで、自分の努力が足りていないということを自覚することができ、心の支えややる気につながっています。

最後にもう一点だけお話しします。暗い話題も多いですが、私自身は今の時代は本当に良い時代だと思っています。ごさを広げて野菜を売っていたような自分でもがんばり次第で会社を上場することができました。情熱さえあればなんでもできる時代です。これは先輩たちががんばってそういう時代を築いてくれたということです。今が良い時代であることをしっかり認識し、それを下の世代に伝えることが大事だと思います。



編集・発行

一般社団法人 和歌山青年会議所

和歌山市西汀丁36番地(和歌山商工会議所5F)  
TEL.073-428-3334(代) FAX.073-431-1693  
URL : <http://www.wakayama-jc.net>  
mail : [office@wakayama-jc.net](mailto:office@wakayama-jc.net)

